

# 有子世帯の加算の検証における データ分析の方法について

# 有子世帯の加算の検証におけるデータ分析の方法について

- 有子世帯の加算の検証方法については、第32回の基準部会において、子どもの健全育成にかかる費用及びひとり親世帯のかかり増し費用の検証は、夫婦子1人世帯やひとり親世帯の年収が減少しても一定の消費水準を保とうとする段階(抵抗線)の有無について確認し、その抵抗線の水準の費用を検証することとしていた。
- しかしながら、夫婦子1人世帯における消費データ分析に当たり、統計的分析手法の一つとされる折れ線回帰分析の手法を用いて、統計的に有意に変曲している分位の分析を行った結果、抵抗線と判断に至る評価には至らなかった。
- このため、有子世帯の加算のデータ分析の方法について、検討作業班において議論を行い、以下のとおりデータ分析の方法を整理した。

## 1 子どもの健全育成にかかる費用のデータ分析の方法

- 子どもの健全育成にかかる費用については、自立助長に資する費用として考える必要があるが、これまでの基準部会において、「学校外活動費は、学びの機会だけでなく、社会的・文化的な機会の幅を広げるものであり重要なものである」といった意見が出されている。
- この点を踏まえ、子どもの健全育成にかかる費用の分析については、学校外活動費用に着目して、夫婦子1人世帯における学校外活動費用の一般的にかかる費用を分析してはどうか。

学校外活動費として考えられる必要な費用・・・書籍、月謝類などの子どもの社会活動費用、  
補習教育費、交通費など

(集計イメージ) 夫婦子1人世帯(勤労者)における年収階級十分位別

第1・十分位	第2・十分位	第3・十分位	第4・十分位	第5・十分位	第6・十分位	第7・十分位	第8・十分位	第9・十分位	第10・十分位
〇〇円									

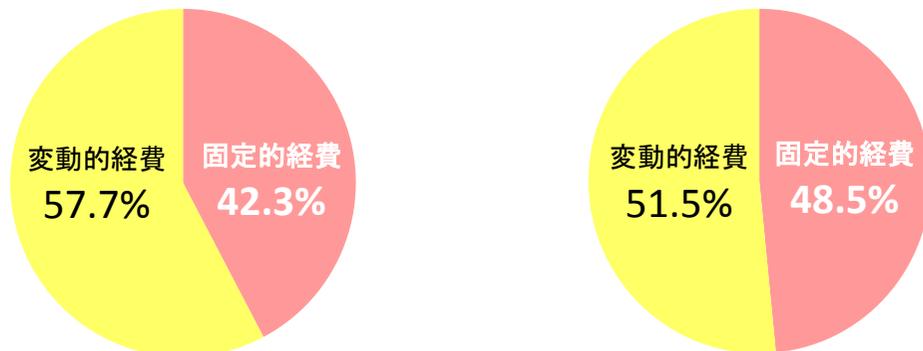
## 2 ひとり親世帯のかかり増し費用に関するデータ分析の方法

- ひとり親世帯のかかり増し費用の検証に当たっては、ふたり親世帯とひとり親世帯の消費の違いに着目することとしていた。
- 今回の生活扶助基準の検証において、夫婦子1人世帯の消費支出階級五十分位別の消費動向に際し、「固定的経費」及び「変動的経費」の支出割合を確認していたことから、母子(子1人世帯)の「固定的経費」及び「変動的経費」の支出割合も確認し、両世帯の比較を行った。
- その結果、母子(子1人)世帯の固定的経費の支出割合は、夫婦子1人世帯に比べて高く、ふたり親世帯とひとり親世帯の生活水準に一定の差が確認された。
- このため、ひとり親世帯において、ふたり親世帯の生活水準と同程度の生活水準を送るためにはどの程度の消費支出が必要か、子どもの費用に関する先行研究(※)を参考に、夫婦子1人世帯と母子(子1人)世帯の固定的経費の支出割合を考慮した消費水準を検証してはどうか。

### ※「食費シェア法による分析」

- ・ 子どもにかかる費用分析に用いられる分析手法。同程度のエンゲル係数(食費のシェア)の世帯は、同じ厚生水準(生活水準)であると仮定して、子どもがいる世帯の消費支出について、子どものいない世帯のエンゲル係数を当てはめた場合の消費支出を計算した上で、実際の消費支出との差を子どもにかかる費用とみなしてその費用の分析を行うとされている。

ふたり親世帯(夫婦子1人世帯)    ひとり親世帯(母子・子1人世帯)



※「固定的経費」とは、食費、光熱水費など、支出全体が増加しても比較的変動しない費用。  
※「変動的経費」とは、被服費、教養娯楽など、支出全体の増加に連動して比較的変動しやすい費用。  
※夫婦子1人世帯(勤労者)及び母子(子1人)世帯(勤労者)世帯における固定的経費及び変動的経費の支出割合の全体平均の比較。